

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくります。

としあか

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 Tel 36-0231



市立図書館も開館して、6か月を経過した。

職員の努力もあって多くの市民の方々に御利用いただいていることは同慶の至りである。

私が小学生のころは、公共図書館でさえ、名前だけという状態だった。まして学校に、図書室があるとところは、まずなかったといつてよい。小学校4年生のころ担任の先生が、読書の大切なことを強調されて、御自分の蔵書やら、子どもたちに呼びかけて持ち寄った本やらを教室の一隅に置いて、自由に読ませてくれたことがあった。

立川文庫の「猿飛佐助」に胸おどらせたのも、少年倶楽部に初めてお目にかかったのもこの学級文庫だった。

こんな私が初めて図書館らしい図書館に出会ったのはずっと後に、教員養成の学校に入学してからだった。全寮制だったので、下級生のころは、専ら運動に明け暮れていたが、ようやくその練習にも手抜きができるようになったころ



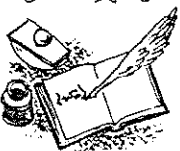
宇都宮市教育長

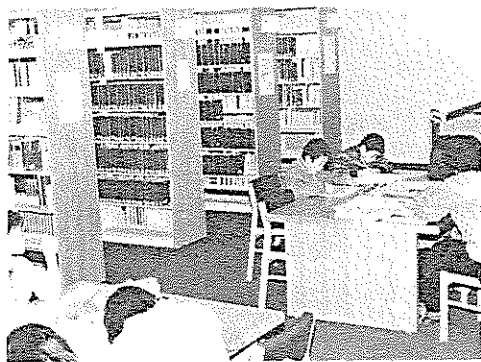
私と図書館

後藤 一雄

図書館に足を運んだことがあった。あちこち立読みしながら蔵書の多いことや先輩が一心に読んだ痕跡を微かなサイドラインから感じとったり、洋書を生まれて初めて手にした感激などを味わったものだった。そのうち「幾何学徒然草」という表題が目に入った。どういふわけで「幾何学」と「徒然草」とが結びつくのかと疑問に思っ、ごく軽い気持で読み始めたが、まさに「魅せられ」、引き込まれてしまった。三角形の合同は、三つの場合があるが、ごく機械的に通り過ぎたものを、図形の移動、決定条件などから統一的なみ方をしたくだりなどは、まさに数学の現代化として提唱された思想であって、私が数学科の教師として生きて行く一つの契機となった出会いだと思っている。

我が市立図書館も少しでも多くの市民の方々に、有形無形のメリットをおわけしたいものである。





調査相談室 3F

各階案内

2

が並んでいます。

「虹」という字には、なぜ虫へんがつくのですか。」

「ほ乳類の『カンシ目』には、どんな動物がいるのですか。」

「谷崎潤一郎の『鍵』のドイツ語訳が出されたのは、何年ですか。」

「ボラ」のアクセントを教えてください。

このような問題解決への手がかりを得るため、お手伝いする所が、三階の調査相談室です。ここには、参考図書といわれる次のような本

万有百科辞典、朝日年鑑、地名大辞典、人事興信録、企業名鑑、日本統計年鑑、経済白書、国勢調査報告書、原色動植物図鑑、美術年鑑、国語大辞典、英米文学案内などです。これらが、調査相談のための資料です。

郷土資料コーナーもあります。

宇都宮市や栃木県の歴史。足尾銅山や田中正造のこと。栃木県の方言や祭りについて。日光の植物分布や五十里湖の気象。つまり、私たちの郷土についての資料が集められているわけです。

さらにもう一つのコーナーには、マイクロフィルムを見るマイクロリーダーもあります。下野、栃木新聞のマイクロフィルムが創刊号から揃っており、古い時代のようなすを知ることができます。

コピーサービスもやっています。館内で借りた本や、貸出し禁止の本のコピーは、ここでどうぞ。

最後に、当図書館にない本でも、県立図書館や国立国会図書館にあることがわかれば、あなたに代わって借りうけることもできます。

資料の近くに一人用机があります。落ち着いて調査や研究に集中できます。



移動図書館 B1

車庫は地階にあります。二台の移動図書館車とライトバンの拠点です。

この移動図書館は、「さつきI号」「さつきII号」といい、「市花」にちなんで名づけられました。

「さつきI号」は、昭和五十四年に購入、教育委員会中部公民館から引継ぎを受けました。

「さつきII号」は、当図書館の開館直前に購入配車となりました。当館は、昭和五十六年七月七日にオープンしました。業務の中に、

十年の伝統を引継いでいるものがあります。それは、中部公民館において、昭和四十六年から始まった移動図書館です。

当館に移管の後、移動図書館の貸出方式は、電算処理になりました。

この移動図書館に積載される図書の数、約二千五百冊、そのうち児童書が半数以上です。

現在、ステーション（貸出場所）の数は、五十四か所です。同じ場所を二週間に一回の割合で巡回し、一か所につき約一時間、業務を行います。

一人あたりの貸出し冊数は、五冊まで、貸出期間は二週間です。

昨年の九月からは、土曜日の午後、四か所のステーションで紙しばいを行っております。

また、まだ紙しばいは量的に少ないですが、一人あたり二巻まで貸出します。

なお、電算で迅速に処理しておりますが、利用者の多い場合は時間がかかることもあります。ご協力ください。

はじめに利用される方は、貸出申込書を提出してください。すぐに貸出券を作成し、その場で借りられます。どうぞ、お近くのステーションにおいでください。

利用上の注意

○返す日になっても、もどらない本があります。次の人が待っています。ほかの人への迷惑を考え、2週間の期限を守ってください。

○図書館前の路上は駐車禁止です。自家用車でくる人は、道路反対側の駐車場を利用してください。

○貸出券は一人に一枚発行しています。二枚以上持っている人は、至急申し出てください。

○自転車、盗難を防ぐため、必ずカギをかけてください。荷物はなるべく、1階カウンターで鍵を受け取りロッカー室へ（無料）。

さがしている本が、図書館にあるかどうか。あるならば、それがどこにあるか。そのときは、目録を活用してください。

一般開架室正面に、書名目録（昭和56年7月現在）と著者名目録（昭和56年12月現在）があります。

また、図書館のコンピュータにも同様の情報が入れてあり、各カウンターの端末機で検索をすることができます。より詳しい情報をお求めの方は、カウンターの職員に相談してください。

私どもでは、子供が幼児のときから、県立図書館を利用しておりました。

そして瑞穂野の地へ参りまして、今までもお

り気軽に図書館が利用出来なくな

るのでな

いかと大変心配しておりました。

そんな折、市立図書館が開館と同時に移動図書館車が巡回して下さることを知り、子供と喜びました。



移動図書館を

利用して

瑞穂 松永 昌子

それからは、毎回欠かさず利用しています。

子供たちに利用出来る時間に巡回して欲しいです。



開館してすでに半年、早いものだ。この間になりに利用させてもらった。週に一度は通っているだろう。借りる本の基準を、私なりにきめてお

く。どうし

ても読みた

い本は借り

ない。それ

は自分で買

うことにし

て。読みたいが

一度内容をみ

たが買えなかつた本、書評でみた



幅をひろげる

ために

どうして

も読みたい

本だけしか

読まない

自分を狭く

限定してし

まうように思

う。借りる本で自分

なりの幅員をひろげようとしてい

る。ありがたい。

東峰町 月坂 弘身

事業

児童文学の創作教室

この講座は、昨年十一月十五日（日）から始まっています。

受講生の募集は、「広報うつのみや」で呼びかけました。定員は60人。広報紙発行日の早朝から電話は鳴り放し。その日は、館員が

応対にくぎづけになり、はじめのうちは快調に受付けていましたが、最後はおこたわりに汗だくでスタートしました。こういう講座を待

っていた人がたくさんいたのだと強く感じました。

2週間に一度の割で、日曜日に開いております。これまで六回の講座が行われました。講師は、児童文学者の木暮正夫氏です。

講座は、日が経つにつれて、一種の熱気を帯びてきました。先生の噛み砕いた創作基礎の講義にノ

ートをとったり、うなずいたり。講義後は質問続出。いつも終了時

間を経過してしまうほどです。年があけて、受講生から三十六

点も創作作品が提出されました。その作品の一つ一つを、木暮先生自

身が添削してくれます。



このように、この講座は、児童文学を読んで楽しむだけでなく、創作を実践し、創作の深い味わいを知ってもらおうというものです。

受講生の作品は、タイプ印刷し、みんなで製本し、文集として残すことになっています。また、受講生が今後も同人誌を出そうと相談

しています。これが実現すれば、本市にも児童文学の灯がともるこ

とになります。

市民のみなさんも、創作の楽しさに目をむけてみませんか。受講したい方は、当日おいでください。

隔週日曜日午後1時30分から3時30分まで行っています（無料）。
☆第7回 2月14日及び第8回 2月28日・作品鑑賞から学ぶもの
☆第9回 3月14日及び第10回 3月28日・みなさんの作品合評

28日・みなさんの作品合評

「ずいひつを楽しむ」講座

この講座は6回連続の講座です。講師には「月刊ずいひつ」編集長の神尾久義氏を招きました。す

に5回が終了しました。

第1回「ずいひつとは何か」、第2回「ずいひつの書き方」、第3、

4、5回「作品合評」と講座内容

が進むにしたがい、受講生は、熱

心に講座に聞き入っています。本

を読むだけでなく、自ら感じたこ

と、考えたことを書く意欲をもつ

市民が増えてきていることを、改

めて痛感させられました。作品23

点がで、近く文集を出すことにな

ります。

最終回（第6回）は、第2回沢

沢賞の受賞者である大出京子氏を

講師として招き、「私の作品」とい

うテーマで左記のとおり開催いた

します。ぜひ、みなさまの参加を

お待ちしております。

日時 2月7日（日）
午後1時30分～3時30分

場所 3階集会室
定員 60名（先着順）

目次

問 閲覧室がウルサクて困る。

答 一人一人のモラルに訴える

しかありません。館側では、巡

回を強化し席を指定するなど

努力しています。ご協力を!!

問 マンガを入れてほしい。

答 意見の分かれるところですが、将来、評価の定まった作

品を入れたいと考えます。

みんなの感想画

児童図書室の壁に「みんなの感想画」というコーナーがあります。これは、本を読んで想像したり印象に残った場面を子どもたちに書いてもらったものです。画用紙は児童図書室のカウンターにありますので、描きたい人はいつでも職員にいつでもください。描いてもらった絵は全部はり出しています。また、希望があれば絵をお返しいたします。今までに82枚の感想画が寄せられました。

お話し会

児童図書室では、毎週木曜日の午後3時半から30分間、紙しばい、絵本よみきかせを中心としたお話し会を開いています。2月の予定はつぎのとおりです。

4日 幼児対象
18日 小学校低学年対象
25日 幼児対象
4日には、節分にちなんで「お

ニュースコーナー



対面朗読

にたのほうし」のよみきかせをします。

目の不自由な方のため、朗読ボランティアのみなさんの協力で、「対面朗読」が実現しています。まだテープに吹きこまれていない本、点訳されていない本を、生の声で、聞きたいところはくりかえし何回でも、読んでもらえます。点字でメモもとれますし、録音もできます。電話で、お気軽にお申し込みください。

展示コーナー

二階と三階のガラスケースでは、郷土資料や、珍しい貴重な本の展示を、随時入れ替えて行っております。現在の展示品はつぎのとおりです。

○小口一郎版画「盤庄に耐えて」
○二・二六事件当時の号外紙
○ビルマ語仏典、その他。

貸出状況

	12月	累計 (7月～12月)
登録者数	1,752人	32,113人
貸出人数		
館内	15,175	108,952
視聴覚	1,352	9,116
館外	2,245	17,219
計	18,772	135,287
貸出冊数		
館内	44,455冊	294,637冊
視聴覚	2,241	15,025
館外	9,329	68,294
計	56,025	377,956

利用案内

○開館時間
午前9時30分～午後7時
ただし、児童図書室は
午前9時30分～午後5時

○休館日
毎週月曜日
国民の祝日
図書整理日（毎月初日または翌日）
特別整理期間（五月下旬）

○貸出は
一人5冊（レコード・テープを含む）・2週間以内

○貸出券
貸出申込書に必要な事項を記入し、提出してください。貸出券は一人一枚です。身分証明書等は不要です。なお、券を紛失した時は三階カウンターに申し出れば、再発行します。

3月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	①	②	3	4	5	6
7	⑧	9	10	11	12	13
14	⑮	16	17	18	19	20
⑳	㉑	㉒	23	24	25	26
28	㉙	30	31			

2月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	①	②	3	4	5	6
7	⑧	9	10	⑪	12	13
14	⑮	16	17	18	19	20
21	㉒	23	24	25	26	27
28						

12月の	館内	1日あたり	館外	1ステーションあたり
貸出人数	719人		28人	
貸出冊数	2,031冊		114冊	

寄贈

市民各位の絶大なご協力をもちまして、現在も寄贈本（継続雑誌を含む）が続々と収集されております。

郷土資料で、最近出版された図書の場合、こちらからの問い合わせに快諾された方も少なくありません。感謝申しあげます。寄贈本がどのような処置を経て利用できるようになるかを説明します。寄贈本は、いったん地階保存書庫に収められます。図書館では、その中から利用の度合いを考慮して選別し、整理を進めています。整理がすみ、コンピュータに登録された図書は、購入図書と並んで書架に配列され、利用できるようになるのです。珍しい図書等は、展示コーナーに陳列します。図書館では、できる限り資料を購入し整備を図っておりますが、まだまだ不十分です。皆さんの寄贈で図書館は充実します。図書館では集まった資料を一日も早く利用してもらえよう、毎日整理作業を急いでいます。しばらくの間を貸してください。

最近寄贈を受けた方は、次のとおりです（敬称略、順不同）。

木下智雄、黒崎正之、小松長久、木暮正夫、岡部守成、猪瀬建造、ほか多数。